

インターバンクの声（2015年7月9日）

週初めの段階では、水曜日はギリシャ支援交渉の展開を見守りながら、米企業の第2・四半期決算や6月の米連邦公開市場委員会（FOMC）の議事録の内容によって相場が動くことになると思われていた昨晚8日のニューヨーク市場だった。しかし、そうした呑気な想定を覆す相場展開に突然にいち早く見舞われたのがアジア市場、中国政府が繰り出す支援策も効果がなく、逆に火に油を注ぐかの如く上海株が大暴落、付き合う必要はないと思うものの、日経平均も今年一番となる600円以上も値下りする大変な一日となった。ニューヨーク市場が始まるまでは121円台で堪えていたドル円も、当然のように下げ始めたダウ平均や米金利の低下を見ながら120円台に差し込んだ。ニューヨーク証券取引所やウォール・ストリート・ジャーナル、航空会社のシステムまでも一時障害が発生したが、当局はテロの疑いを否定したものの、世界的に金融市場が混乱していた日だけに、少し嫌な気がした。何か大きな事象が起きた時に限って、こうしたシステムの障害まで起きるような気がしてならないが、アジア時間でも気を付けたほうが良いかも知れない。まずは、昨日あれだけ値下がりがりしたアジアの株式市場の動きに注目だ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。